



三浦 義光 議員
無会派

問 環境被害におよぶ生物対策は？

答 来年度予算計上し、対策を検討

問 特定外来生物の飼育、栽培、保管、運搬、輸入などの規制、生息状況の把握は。

答 **民生部長** 市として取り扱いは規制や生息状況の把握はしていない。

問 ミシシippアカミミガメ（ミドリガメ）の屋外放逐禁止や野外定着している個体の捕獲は。

答 **民生部長** 外来生物による被害予防は「入れない」「捨てない」「広げない」の3原則が重要であるが、捕獲を計画的に行うことは難しい。

問 セアカゴケグモの本年度市内発見状況は。

答 **民生部長** 市内で17年10月に初めて発見情報があったが、本年度はまだ情報は寄せられていない。

問 ケシの市内^{ばっきよ}抜去本数が海部管内において多い原因は。

答 **民生部長** 農地などの自生しやすい環境による。

問 ノートリアは、ここ数年、農作物被害が増大しているが、対策、注意喚起は

行っているか。

答 **農政課長** 12台の小型箱ワナを農家に貸出し、捕獲処分している。

問 ジャンボタニシの大量被害が発生する前の注意喚起は。

答 **農政課長** 発生が予想をされるようであれば、注意喚起する。

問 鳥獣を含む生物の環境被害、農産物被害を、防止していく一体的な計画の作成は。

答 **市長** 29年度当初予算を計上し、協議会を発足していきたい。



▶ 箱ワナに捕獲されたノートリア

問 今後の多面的機能支払交付金は？

答 地域の希薄化を防ぐ！

問 多面的支払交付金の協定締結が、少ない市内北部地区での合同説明会の開催は。

答 **農政課長** 要望があれば、1集落でも開催する。

問 水路の泥上げ、農地の法面の草刈りなどの共同作業は、集中豪雨での水の氾濫を防止できる。

市側の多面的支払交付金制度の重要性は。

答 **市長** 少子・高齢化若者の農業離れなど、地域の希薄化が懸念、活動組織を立ち上げ、地域の防災・減災、自然環境の保全、または良好な農業景観を保つべきと考える。

答 **農政課長** 大きく3点。①地域資源を保全する基礎的共同活動、②地域資源の質的向上を図る共同活動、③水路等施設の長寿命化の活動。

問 鍋田地区、十四山地区で活動している広域保全活動のメリットは。

答 **農政課長** 提出書類が一本化されるため事務負担が軽減されるなど。



▲支払交付金による共同作業